

てとてをつないで

保護者の皆様、地域の皆様には、日頃より本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りましてありがとうございます。本年度も引き続き、「道徳だより てとてをつないで」を発行し、各学年の授業や道徳教育の取組についてお知らせしていきます。

学校教育を通じて、特に道徳の授業で子どもたちに学んでいってほしいことは、次の4点にまとめられます。

- 一人でも考えること
- 他人の意見をしっかりと聞く（聴く）こと
- もっとよい考え方はないか、探ること
- 多くの人たちと一緒に幸せに生きていくためにはどうすればいいのか、どうすることが正しいことなのか、よいことなのかを探ること



こういったねらいを達成していくためには、考える時間が確保されていること（自分の時間）や交流があること（他者との関わりの時間）が大切になります。「考えること」と「議論（話し合い、対話）すること」で、その活動を通じて「どうすることが正しいことなのか、よいことなのか」を子どもたちが見極めていけるようになるのです。つまり、個人でしっかりと考えるということ、協働でアイデアを出し合って考えていくという学習活動を通じて、「よりよく生きる」ということを探っていくことです。

どの授業においてもそうですが、授業開きで大事にしたいことは、その教科が「楽しい!」「なんだかワクワクする」「学ぶことに意味があるかも!」と子どもたちが感じることです。どれだけ子どもたちの知的好奇心を引き出せるか、それにかかってきます。そこで、今回は絵をグループで描く活動を通して、道徳とはどんな授業なのかを子どもたちに伝えた授業をご紹介します。道徳なのに絵を描くと言われると驚くかもしれません。子どもたちも最初の道徳の授業がお絵描きだと知ると分かりやすく驚きました。しかしこの斬新さが授業開きでは大切だと考えます。

【授業展開】

- 1 カラーペンを一人一本選ぶ（グループ内で色が被らないようにする）。グループ内で相談をしないこと。絵の上手さを競うわけではないこと。絵が下手な人をからかっではいけないことを伝える。
- 2 絵のテーマ「海の中」や「ジャングル」など具体的すぎず、誰でも描きやすいようなテーマを選び、一人30秒で一本のペンを使って絵を描き、グループの次の人に回す。一人2回で終了。
- 3 各グループで描いた作品を黒板に掲示し、絵のいいところを認め合う。

この授業では、一人1本しか使えないというルールがポイントとなります。例えば、ジャングルをテーマにしたとき、緑色しかないと、草木しか描けません。青があれば、空が描けます。他の色があれば動物だって描けるでしょう。また、制限時間がなく、たくさん描けたとしても一色では、つまらない絵になってしまいます。絵の作者が一人ではなく、複数人いて、しかも得意不得意の子どもたちがいるからこそ、偶発性が意図的に起き、人によって考えの色はちがうけれど、たくさんの考えが集まることで新たな気づきを見つけたり、納得したりします。一人の意見では乏しいものが、たくさんの意見が集まれば素晴らしい考えにとどりに着くことができるかもしれません。絵は主観によって評価が分かります。友達と絵を見合った後で「どの絵が気に入りましたか?」と質問すると、子どもによって選ぶ絵が異なりました。また、同じ絵を選んだ子ども同士でも理由が異なりました。子どもによってお気に入りの絵が異なり、お気に入りの理由が異なるように、道徳の授業でも納得する考えは子供によって異なります。考えは人それぞれだけど、そこに優劣はなく、人によって納得する答えが違うということを子どもたちに気付かせました。

道徳に絶対の正解はないことに気付かせ、友達の考えから学びを深めていく、そんな授業づくりを、今年度もしていきたいと思えます。